



談論

風発

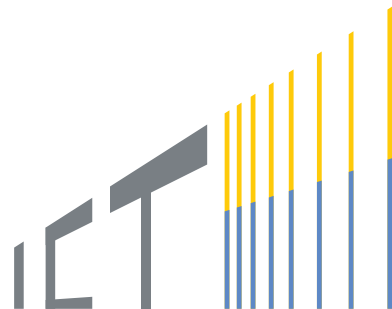
INTERVIEW

小林 充佳

KOBAYASHI Mitsuyoshi

西日本電信電話（NTT西日本）相談役
関経連副会長

ICTで「つなぐ」 新しい世界を 「ひらく」ことをめざして



このたび関経連の副会長を拝命いたしました。微力ながら、これまでの経験を生かして関西ひいては日本経済の発展に貢献することができればと考えています。

当社は、ICT（情報通信技術）を用いて社会課題を解決する「ソーシャルICTパイオニア」として、社会に必要とされ頼りにされる企業をめざしてまいりました。社長時代、この思いを具現化するために始めたのが、地域活性化の取り組み、通称「ビタミン活動」です。ビタミンは人が元気に生活していく上で大切な栄養素です。ICTの活用を通じて地域のお客さまと共に新しい価値を生み出す力になりたい、そのような思いから命名しました。

地域活性化の取り組みでご紹介したい事業が、「森林・林業DX」です。ドローンで調査・計測した森林情報をデジタル化し、木材管理を実現することで、効率的な森林経営や木材の安定供給、地域産業の活性化につなげる取り組みです。さらに、森林由来のカーボンクレジットを創出・流通させることで、脱炭素やカーボンオフセットを進める、あるいは、森林整備による土砂災害の防止につなげるなど、社会全体のサステナビリティにも貢献します。この取り組みが評価され、今年4月、当社は第32回地球環境大賞の総務大臣賞を受賞しました。

また、2021年には、当社グループの新たな存在意義（パーパス）を『「つなぐ」その先に「ひらく」あたらしい世界のトビラを』と定め、ICTでつなぐことに加え、人と人、企業と企業をつなぎ、新しい社会・世界を作っていくこととしました。

この思いのもと、企業・スタートアップ・学生・自治体などをつなぎ、共創する場として2022年に開業したのが、本社の

敷地内にあるオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE（クイントブリッジ）」です。開業2年で個人会員は1.8万人、法人会員は1,300組織、開催イベントは年間400回を超えるなど、おかげさまで非常に盛況です。当社では会員と、さまざまな課題を抱えた各地域の皆さまとをつなぐお手伝いも行っています。

関経連では、DX委員会、国土・広域基盤委員会、都市・観光・文化委員会の3委員会を担当します。委員長も務めるDX委員会では2022年に策定した「関西DX戦略2025」に基づき、DX推進の機運醸成、産学官連携、人材育成などの活動を加速してまいります。国土・広域基盤委員会は、各事業の着実な実行に加え、来年、阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、防災力向上へ検討を進めます。通信事業者として当社が培ってきた災害対策のノウハウをふまえ、活動に貢献できればと思います。都市・観光・文化委員会は、先行まちびらきを控えた「グラングリーン大阪」や新大阪駅周辺の開発などと2025年大阪・関西万博とを組み合わせ、地域活性化につなげたいと思います。

私は岡山県出身ですが、長く暮らした関西はいまや第二の故郷です。関西は、自然に恵まれ、都市部の交通インフラや先端的な研究を行う大学・研究機関なども充実しており、大変魅力的な地域です。そして何事も寛容に受け入れる気質と文化が、関西の可能性を広げているように思います。この関西の高いポテンシャルを発揮して、各府県がそれぞれの特色を生かしながらさらに元気になるよう、私自身も尽力してまいります。（談）